

1 便潜血反応とはどんな検査ですか？

ヒトヘモグロビンに対する特異抗体を用いて、便表面の血液を検出します。

50mL以上の消化管出血があると、便の肉眼的観察で消化管出血を疑うことができます。便潜血反応は、肉眼的に観察できない微量の消化管出血をスクリーニングする検査です。大腸癌は直腸やS状結腸に多く、便の表面の一部に血液が付着することがよくあります。上部消化管（胃など）からの出血では血液が便塊に混ざりこみ、また、ヘモグロビンが胃や腸で変化してしまうため、この検査は大腸癌の検診に使われています。

病変があっても1日法では検出されない可能性があり、2日間連続で採便する2日法が推奨されています。

この検査は、ヒト以外のヘモグロビンとは反応しないので、食事や薬剤の影響は少なく、直前の食事調整は必要ありません。

専門医が教える 健診で受ける検査の意味 ②

便潜血反応の検査について



日本臨床検査専門医会
中村 聡子

2 どうやって採便すればいいですか？

和式トイレの場合は、便器後方にトイレットペーパーを敷き、その上に排便します。洋式トイレの場合は、通常とは逆方向に（蓋に向かって）座り、同様にトイレットペーパーを敷きます。トイレの洗浄水に添加されている消臭・消毒液が便に付着すると、正確な検査結果が出ませんので、洗浄水が便に付着しないように気を付けましょう。

血液が付着しているのは便表面の一部だけのことが多いので、採便器で、表面を広く、まんべんなくこすり取ります。先端の溝が埋まるくらい取りましょう。少なすぎても多すぎても、正確な検査結果になりません。室温（15-20度）ではヘモグロビンが変性していくので、採便から3日以内に提出しましょう。冷暗所での保存が望まれます。

検査の精度・正確さは、採便方法に左右されます。説明書をよく読んで採便してください。

3 陽性といわれました。どうすればよいですか？

便潜血反応が陽性となって精密検査を受けた方の約10%に、大腸癌が発見されたとの報告があります。そのうち、早期癌が約6%、進行癌が約4%でした。良性の腺腫が最も多く、約40%といわれています。

2日とも陰性の場合は、翌年の検診を受けましょう。1日でも陽性の場合は、全大腸内視鏡検査をおすすめします。大腸内視鏡検査で異常がなかった場合は、主治医の先生と相談の上、上部消化管検査（食道や胃）の検査を受けることも必要でしょう。

●洋式・和式トイレの座り方

